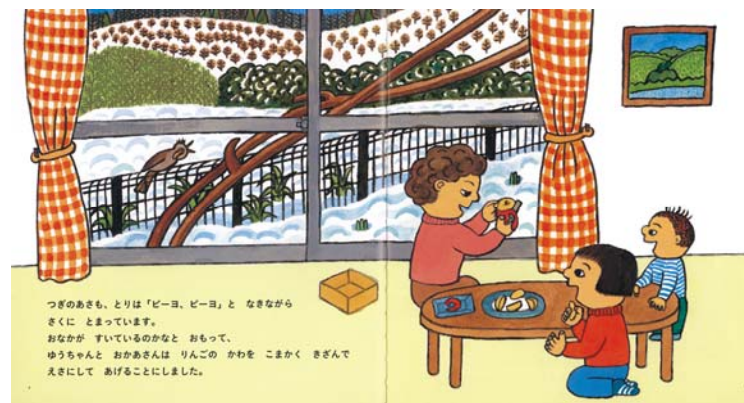




網の上におもちをのせて、さあ焼こう。じりじりじりじり、おもちがだんだん熱くなる。ちりちりちりり、ほんのり裏が焼けてきた。もう、焼けたかな？ まあだまだ、もう少し。おもちが焼ける様子を繊細なタッチの木版画で描いた絵本です。



雪が降り積もった庭にやってきた、一羽のひよどり。ゆうちゃんは、おなかをすかせたひよどりに、りんごの皮を刻んであげることにしました。最初は警戒して餌を食べなかったひよどりですが、えさ箱を高い位置につけると、やっと食べてくれました。女の子とひよどりの交流を冬から春にかけて描いた、ほのぼのと心温まるお話です。



しばらく あるくと、いちめん はなが さいていました。
フンファン、いい におい。

ちいさな はりねずみは はなを あたまに かざりました。
そのとき……

夕暮れの森の中を、お母さんやきょうだいたちと歩いていたちいさなはりねずみ。ちいさなはりねずみはみんなから離れ、出会った犬と一緒に川の水を飲んだり、花が咲きほこる野原でのんびりしたりします。すると、きつねが現れ、襲われそうになってしまいますが……。美しい森を舞台とした、好奇心旺盛なちいさなはりねずみの冒険を描きます。



「ひよこが にげます」「みんなで にげます」——おうちから元気に逃げ出したひよこたちは、好奇心いっぱい。外のひろい世界でいろいろなものに出会い、様々な経験をしながら、どこまでもどこまでも逃げていきます。転がるように駆けていくひよこたちの疾走感が心地よい、シンプルで楽しい絵本です。

こどものとも 年少版 5

なんのくるまに
のるのかな？



小倉瀬雄 さく

ごみしゅうじゅうしゃ



まちじゅうの ごみを あつめて
ごみしょりじょうへ はこびます

「たくはいびんの おねえさん。なんの くるまに のるのかな？」「たくはいしゃ。にもつを のせて みんなの いえに とどけます」「けいさつかん。なんの くるまに のるのかな？」「パトロールカー。まいにち まちを みまわります」。他にも、消防士さん、清掃作業員さん、バスの運転士さん、工事の作業員さんたちが次々に登場し、働く人たちがどんな車に乗ってお仕事するかを紹介します。



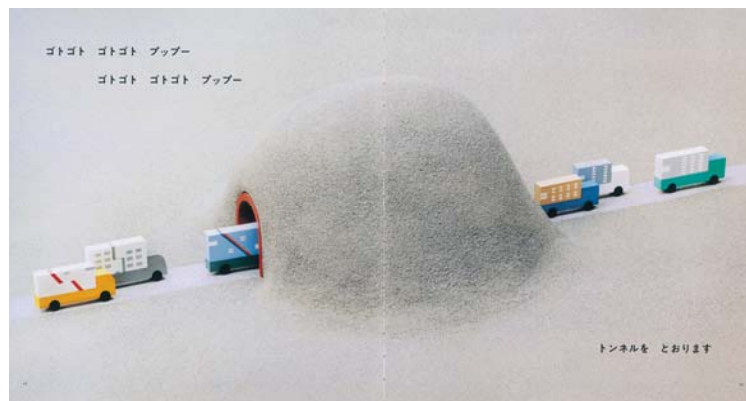
夜になったので、お月さんが「はやくねなさい」といいます。でも、かぼちゃの子は頭の上にかえるが乗っていて「ねられん ねられん」といいます。かえるさんにどいてもらってようやく寝られるかと思ったら、今度は背中にいもむしがついていて「ねられん ねられん」といいます。かぼちゃの子が眠るまでの、お月さんとのやりとりが楽しいお話。



なつのおやつは
ひやっ つめた〜い



「あさがおが さいてるよ」。かきごおり、入道雲、線香花火…。まわりを見渡すと、ほら、ここにもあそこにも夏はいっぱい！ 身近な“夏”を見つける絵本です。花はうっとり美しく、食べ物は手をのぼしたくなるほどおいしそうに描かれた絵。季節がたっぷり感じられます。この絵本を読んだら、ここにも夏がある！ と子ども自身がきっと探したくなることでしょう。



ゴトガタ ゴトガタ プップー。緑、青、赤……いろいろな色のトラックが走っていきます。くねくね道を走り、トンネルを通り抜け、さあ、到着しました。トラックたちが荷物をおろすと……、思いもかけないものが現れます！ 積み荷を含め、カラフルなトラックはすべて木で丁寧に作られたもの。造形作家ならではの、繊細で美しい世界で魅了します。



丸くて白いものが描かれています。「うえからみると なんだろう」。次の場面で、「よこからみると」、ソフトクリームとわかります。朝顔、目玉焼き、金魚鉢……いろいろなモノの、上から見たときの姿と横から見たときの姿を見せていきます。「へえ、上から見たときと横から見たときでこんなふうに違うんだ！」と、わくわくした気持ちになる、楽しい絵本です。